

東北大学文学研究科

事業名	留学生の災害対策貢献支援事業						
実施期間	平成27年11月7日(土)～8日(日)、19日(木)						
場所	岩手県陸前高田市、平泉町、東北大学大学院文学研究科棟						
参加者	外国人留学生	地域住民	学生	スタッフ	関係者	来場者	合計
	37	11	6	2	10	0	66 名

<実施内容>

東北大学では東日本大震災学生ボランティア支援室を設置し、被災地に学生ボランティアを積極的に派遣しています。しかし、一方で留学生が被災地にボランティアに行く機会は被災した留学生の卒業・帰国に伴い減少しています。

このツアーでは、意欲のある留学生及び日本人学生に対し、被災地でボランティア活動を行う場を提供するとともに、参加した学生が住民と交流することにより、被災地の現状への理解を深めました。



海沿いを見渡せる高台から被災地を見学

東北大学文学部・文学研究科では、11月7日(土)、8日(日)に留学生29名、日本人学生4名が参加し、ボランティア・スタディツアーを開催しました。

7日(土)は岩手県陸前高田市の二又復興交流センターにて「陸前高田被災地語り部」くぎこ屋 釘子明さんにご講演いただき、東日本大震災による陸前高田市の被害状況、避難所の運営などについて学びました。

その後、釘子さんにご案内いただき、震災遺構として保存されている道の駅「高田松原」タピック45や、5階建ての4階まで津波が押し寄せた雇用促進住宅などを見学しました。

夜は、災害時の行動について考えるゲーム「減災アクションカードゲーム」を通じて、災害による被害を少しでも減らすためにどのように行動するべきかそれぞれが意見を出し合い、理解を深めました。

8日(日)は陸前高田市立第一中学校に建てられた仮設住宅を訪れ、清掃ボランティアを通じて住民の方々と交流しました。

午後からは平泉町に移動し、世界遺産に登録されている中尊寺などを見学しました。

また、11月19日(木)に災害対策講習会を開催しました。この講習会では、減災アクションカードゲームを開発した本学の学生等が講師を務め、10月に来日したばかりの留学生を中心に災害時の行動について学びました。

<参加者からのコメント>

李 暢さん(中国)/LI CHANG

今回の活動で、実際に被災地に行ってみて、被災地の人々の大変さがよく分かりました。それは実際に行ってみないと分からないことです。力は小さいかもしれませんが、他の人の助けができれば嬉しいです。皆さんは親切で、前向きな姿で生きていることに本当に感動しました。早く落ち着いた生活が送れるように心から祈っております。

ラーマン クマール ビスワスさん(バングラデシュ)/RAMAN KUMAR BISWAS

このツアーはとても楽しかったです。減災アクションカードゲームをすることで、津波からの避難やどのように防ぐかを学びました。津波の被害があった地域を訪問し、東日本大震災で起きた現実をすることができました。被災者の方々の家を掃除することができ、大変うれしく、そしてこの活動に大変満足しています。